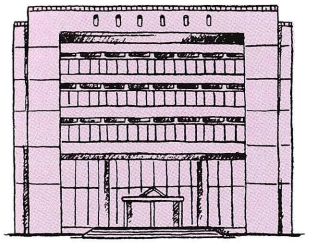
西南学院大学



図書館報

No. 141
1996.10

不易流行

法学部法律学科１年
三宅政輝

私が西南学院大学に入学して数ヵ月が過ぎた。私の書いた文章を読んだ人が、早速本を読もうと考えるとは思えない。また、私には人の考えを変えるような文章を書けそうにない。そこで大半の人がもう忘れてしまったであろう高校図書室と、現在皆さんが利用している大学図書館の違いを中心に書くことにした。

大きな違いの一つは設備面にある。ゲートロックや BDS (Book Detection System)、検索コンピュータ、AV ブース、SAINS ルーム、国際機関資料室（国連寄託図書館や EU 資料センター、OECD 協力資料館）。上記の設備のどれもが高校図書室にはなかったものばかりである。特筆に値するのは国際機関資料室である。国際化が叫ばれる時代であるが、実際に国際機関の活動に接する機会は少ない。しかしこの資料室で議事録などを閲覧すれば、国際機関の活動や世界各国の立場や考えを理解するのに役立つ。

また、大学図書館の方が蔵書数が圧倒的に多いのは言うまでもないが、所蔵している本の種類に違いがある。高校図書室は文庫本が一番目立つ場所に置いてあった。貸出される本も文庫本が一番多かった。しかし大学図書館で文庫本を見かけることはほとんどない。その代わりに、専門書が非常に多くあり勉強には事欠かない。けれども私は高校時代に読んでいた本は文庫本がほとんどで、しかも大半が推理小説だった。そんな私だから、大学図書館を最初に利用した時、どの本を読むか非常に迷った。結局、話題図書の中から一冊を読んだ。それからはずっとそこから本を探して読んでいる。

次に、利用の仕方が大きく変わった。私は高校時代に図書室を勉強目的に利用したことがほとんどない。司書の先生は私たちが図書室を読書のために利用することを好んだ。しかし実際には、図書室は読書の場というより、おしゃべりの場と化していたので、勉強ができるような環境ではなかった。また、わざわざ図書室に行かなくても教室で勉強できた。高校時代の勉強は、問題集や参考書、辞書などがあれば十分で、図書室で本を調べなければならないということはなかった。

しかし、大学では高校の教室に相当するものがないので、大学で勉強しようと思えば、空いている講義室か図書館を利用するしかない。しかも図書館は静かで勉強するのに環境がよい。また大学はレポートの提出が必要な講義がある。それが未知の分野のものならば、図書館に行って本を調べる必要が多く生じてくる。だから大学に入学してからは、図書館では読書にふけることが大半だが、勉強することもある。

ここまで、高校図書室から大学図書館になって変わったことを書いてきたので、最後に変わらなかったことを一つだけ書きたいと思う。私は図書室（大学では図書館）を利用し、本を読んできたということである。読書は習慣になれば苦しいものではない。まず、大学図書館や大学近くにある福岡市総合図書館を利用してはどうだろうか（もはや高校図書室を利用する機会はないだろうから）。

《目　　次》

不易流行……法学部法律学科１年　三宅　政輝……1
インターネットと図書館の関わり……商学部経営学科講師　井手　順子…2～3
卒論を書きましょう……4～5
雑誌あれこれ……6～7
AV コーナーを拡充　ワイドテレビの視聴セット完成……事務次長　篠崎　珣……8
お知らせ……8

インターネットと図書館の関わり

商学部経営学科講師　井手　順子

「インターネット」という言葉を一度も耳にした事のない方はおそらくいらっしゃらないと思います。昨今のインターネット〝ブーム〟には閉口してしまいますが、このブームに乗り遅れまいと、各業者、学校関係者、学生も必死になっているのは確かです。しかし、このブームは一体いつまで続くものなのでしょうか？ 今の状態では、単なるブームに終わってしまい、そう長くは続かないと私は思います。

そもそも、インターネットとは何なのか、と申しますと、ネットワークとネットワークとの相互接続により構築されているものであり、ネットワークのネットワークとも言えます。企業内や学校内のローカルなネットワークが、同じようなローカルなネットワークと次々に接続していき、結果的に世界中が繋がってしまったといったものです。ですから、インターネットという名称のネットワークが存在する訳ではなく、この世界規模ネットワークの総称にすぎず、これを統括管理している人間や機関がある訳でもありません。

西南学院大学でも、学内ネットワーク（SAINS: 西南学院大学総合情報ネットワークシステム）が1995年４月に稼働しました。そしてSAINSは学外のネットワークにつながっており、ひいてはインターネットの一部だと言えます。ですから、SAINSが利用出来るという事は、電子メールの送受信や、ワールドワイドウェブによる情報の発信、ネットニュースの記事の閲覧および投稿等のインターネットサービスの利用が可能であるという事になります。

さて、図書館では、SAINS OPAC システム（OPAC: Online Public Access Catalog）により、本学院図書館の所蔵資料を、書名、著者名、件数等により検索出来ます。このシステムが構築されている大型計算機（M860）は、SAINSに接続されています。ですから、わざわざ図書館に足を運ばなくても、例えば情報処理センターや先生方の研究室にあるパソコンからも図書検索が可能です。本学院図書館にある膨大な数の図書の中で、自分の読みたい文献を、環境が整ってさえいれば何処からでも容易に捜し出す事が可能なのです。

また、今やインターネットの代名詞ともいえるワールドワイドウェブを利用する事により、世界中にある様々な情報を入手する事が出来ます。ワールドワイドウェブというものは、既にお聞き及びでしょうが、くもの巣状に張りめらされた世界規模の情報提供システムと言えます。情報は分散して点在（各機関が責任を持って維持管理）し、リアルタイムに情報の更新が行われています。そこでは、文字、画像、音声といった情報を取り扱う事が出来ます。各機関は独自の情報を世界中に発信しているのです。その内容は機関によって様々であり、大学であれば講義内容やサークルの紹介、公共の機関であればその地方独特の行事の紹介や行政案内、企業であれば新製品の紹介や就職案内など……ちなみに本学院でも既に情報の公開を行っています。

インターネットがテレビやラジオといった他のメディアと大きく異なっている点は、双方向性にあります。今までは受身でしかなかったのですが、インターネットでは、自分の思う事を自分の思う方法でもって、世界中にアピールする事が可能なのです。例えば環境保護に関する訴えを自分のホームページに掲載すると共にアンケートを実施し、その結果をもとに抗議運動を起こしたり、企業に直接質問や意見を送ったり、気に入った情報を見付けると、その提供者または団体へ電子メールを送信し、連絡をとりあう事も出来ます。ワールドワイドウェブでは、お金や権力によってその内容や質が決定されるのではなく、本人の能力やそれに費す事の出来る時間といった、個人レベルでのみ決定されるものなのです。皆に平等に与えられている、自由に発言できる場なのです。しかしながら、他人の中傷や、反社会的な内容といった目に余るものが多数ある事も事実です。これは今後の重要な課題の一つです。

ワールドワイドウェブでこれだけ豊富で多種多様な情報が公開されるようになった事で、どの様な情報が何処にあるのか、といった情報検索システムが出現しました。そのマシンにアクセスし、キーワードや検索条件（年代、地域等）を入力する事によって、欲しい情報源を特定できます。例

えば、「library」というキーワードで日本国内で登録されている機関を調べた結果、国会図書館を始めとして、26機関が上げられました。この様に、何の研究を行っている機関は何処である、といった事や、行きたい場所（大学、図書館、美術館等々）などの情報を、自室に居ながらにして得る事が出来ます。しかし、私達は、この様な莫大な量の情報の中にうずもれてしまいがちです。必要な情報を如何にして最適な方法で入手し、活用していくかが大きな問題ではないでしょうか？

私達が利用可能なインターネットサービス（電子メールやネットニュース、ワールドワイドウェブ等）の概要を理解した上で、各個人が上手に活用し、自分なりの有効性や優位性を見い出していく事によって、インターネットブームが単なるブームではなく、長く利用され得る価値が出て来るのだと思います。本学院の SAINS は、大変整った環境にありますので、皆様の活発な利用を希望致します。

《関　連　図　書》

マッキントッシュとウインドウズユーザのためのホームページのつくり方／電視郎著／1996／エーアイ出版／**547. 48. 93**

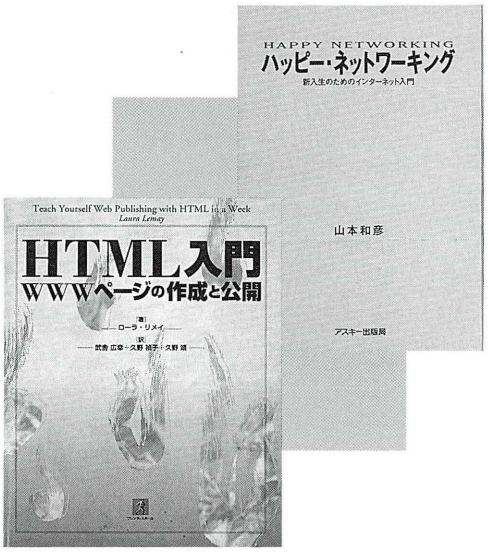
成功するためのインターネットビジネスバイブル／Vince Emery 著／1996／ソフトバンク／**547. 48. 96**

World Wide Wed イエローページ／アンドリュー・バズィー〔ほか〕著／1995／プレンティスホール出版／**547. 48. 73**

インターネットビジネス活用の最前線／Mary J. Cronin 著／1994／オーム社／**547. 48. 46**

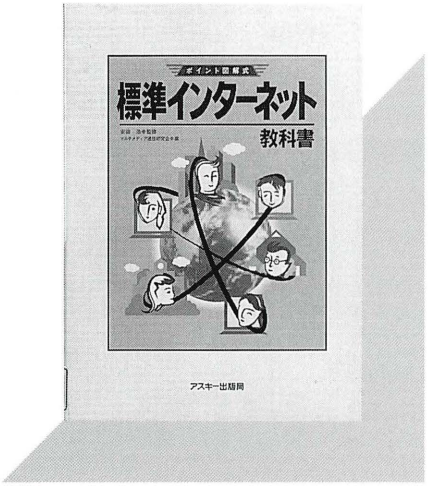
英和コンピュータ用語大辞典／コンピュータ用語辞典編集委員会編／1996／紀伊國屋書店／**007. 033. 5**

ファイアウォール／William R. Cheswick, Stevan M. Bellovin 著／1995／ソフトバンク／**547. 48. 85**



インターネットイエローページ／Harley Hahn 著／1996／ソフトバンク／**547. 48. 98-1**

標準インターネット教科書／マルチメディア／通信研究会編／1996／アスキー／**547. 48. 95**



日経インターネット・イエローページ／日本経済新聞社編／1996／**547. 48. 102-1**

新機能，CGI，Web の進化／ローラ・リメイ著／1995／プレンティスホール出版／**547. 48. 74-2**

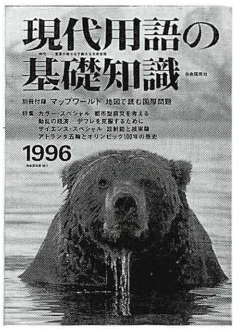
Mac で始めるインターネット／日経 MAC 編集，赤塚一共著／1995／日経 BP 出版センター／**547. 48. 99**

WWW ページの作成と公開／ローラ・リメイ著／1995／プレンティスホール出版／**547. 48. 74**

ハッピー・ネットワーキング：新入生のためのインターネット入門／山本和彦著／1994／アスキー／**547. 48. 79**

§ 卒論を書きましょう §

大学生活の締めくくりとして卒業論文があります。**「卒論といえば図書館」**というわけで卒論作成において図書館の上手な利用方法をここで教えましょう。



①用語・略語・人名について調べたい

これらのものは辞典で調べましょう。辞典といってもその種類は多数あります。自分が調べたい分野の辞典を探しましょう。辞典は１階の検索用端末の後ろの第１参考図書コーナーと各階の辞書棚にあります。

②出典作品が見たい

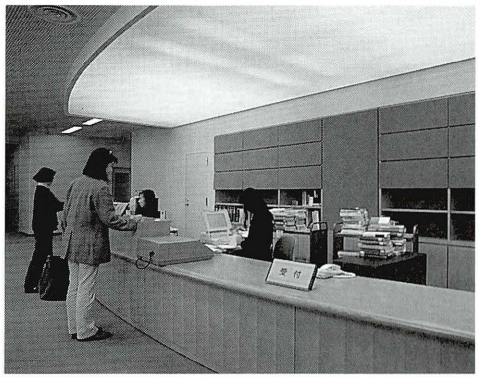
論文や図書の各章の最後に参考文献が掲載されています。自分が興味を持っている論文にこのような参考文献についての出典があった場合はこれを見てみるのも１つの手です。

まずは検索端末で探しましょう。

◆本学にある場合　開架のものは直接書架へ行きましょう
　　閉架のものはカウンターで請求して下さい

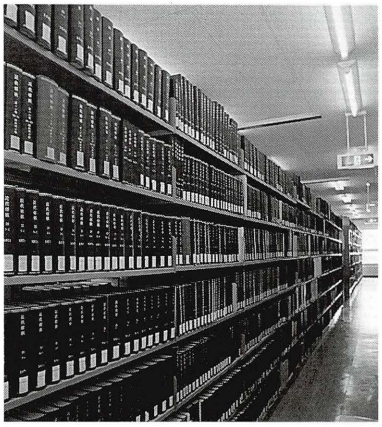
◆本学にない場合　学外文献複写　他大学にある資料のコピーを取り寄せるものです
　　学外図書借用　他大学にある資料を借りるものです
　　相 互 利 用　近隣の大学に資料がある場合はそこへ直接行ってみるのもよいかもしれません

これらのものは申し込み書や紹介状が必要となりますので１階カウンターで申し込んで下さい。



※申し込み書には必要とする資料についての情報（著者・タイトル・論文名・発行年・ページ数など）を正確に記入した方がより早く資料が手元に届きます。

③過去の新聞や雑誌が見たい



過去の新聞や雑誌からの情報を卒業論文で引用することがよくあります。過去の新聞は縮刷版とマイクロフィルムで所蔵しています。雑誌については製本されています。これらは閲覧したいもののタイトルと何年何月何日発行あるいは何巻何号かをカウンターで申し込んで下さい。図書館員が何日分でも何カ月分でも持ってきます。

④図書をもう少し多く、もう少し長く借りたい

通常の貸し出しは5冊15日間ですが、卒業論文作成のためこの通常貸出とは別に3冊30日間まで借りることができます。これは図書を借りるときにカウンターで論文用特別貸出の申し込みを行って下さい。

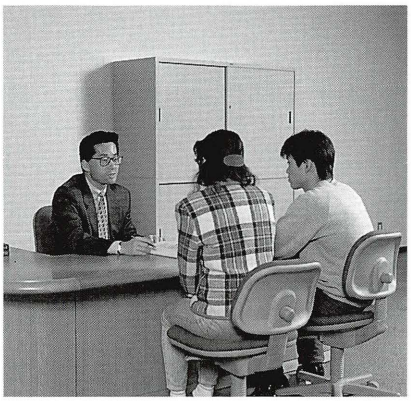
⑤グループでまとまって作成したい

このような場合にはグループ学習室があります。3階と4階に2部屋づつあり、1日1回3時間まで利用できます。貸出ができない資料をグループで利用する場合やグループで共通の資料を利用する場合に有効です。利用したい場合は、利用希望日の1日前までに利用許可願いをカウンターに提出して下さい。

以上のように図書館の利用の仕方を教えましたが、これでもわからない場合は**レファレンスサービス**を利用して下さい。これは図書館の情報を最大に利用するためのシステムで内容は次のとおりです。

- 資料がどこにあるかわからない
- 検索端末の使い方や目録カードの調べ方がわからない
- 新たな情報源がほしい
- 図書館の有効な利用方法が知りたい
- 情報の引き出し方がわからない
- もっと別の検索方法が知りたい

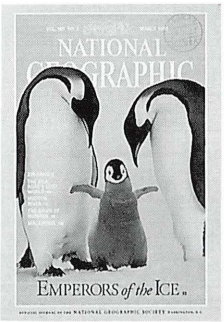
etc.



資料を探すことも卒業論文作成のうちに含まれています。ですからまず自分で資料を探してみて下さい。もしそれでわからない場合は、レファレンスサービスを利用して下さい。図書館員はそのような場合は最大限の協力をします。図書館のことで困ったときは遠慮せずにカウンターに相談して下さい。

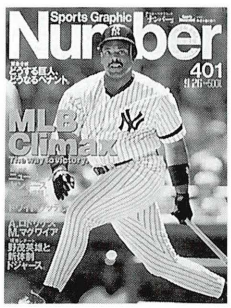
★★★雑誌あれこれ★★★

図書館は［**本（図書）**があるところ］と思っていませんか。間違いではありませんが『**雑誌**』も豊富に揃っています。ここではちょっとその雑誌について紹介してみましょう。



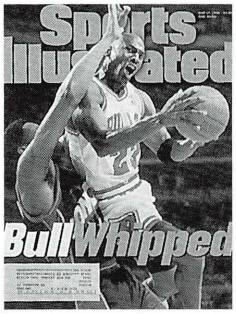
←National Geographic（英語版）

地球・生き物の育み・動物の力強い生命力・自然のスケールの大きさ・世界の人の暮らし・文化・歴史などを社会的でドキュメンタリー色の強い写真と臨場感あふれる記事で綴った雑誌です。閉架にありますので、カウンターに請求して下さい。ちなみに日本語版は１階雑誌コーナーにあります。英語と日本語の記事を読み比べてみてはどうでしょうか。



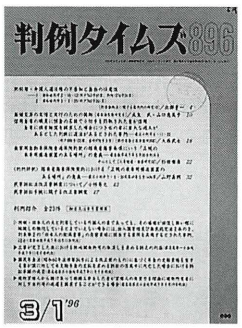
←Sports Graphic Number

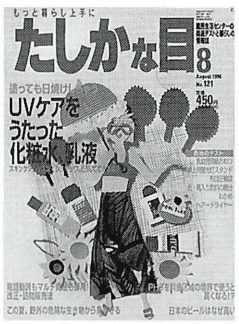
あらゆるスポーツを各号のテーマにそって紹介する総合スポーツ誌で、ダイナミックな写真とインタビューと評論を中心としています。１階雑誌コーナーにあります。この雑誌は世界的に最も有名なスポーツ雑誌“Sports Illustrated”と編集提携をしています。こちらは２階雑誌コーナーにあります。➜



判例タイムズ➜

判例の速報・詳報や論説・解説・法解釈など様々な法律実務の課題をもりこんでいます。法曹界をはじめ官庁・会社の法律実務家に幅広く読まれています。閉架にありますのでカウンターに請求して下さい。





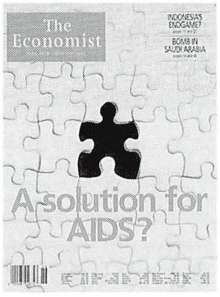
←たしかな目

国民生活センターが行う商品テスト結果を中心に消費生活の向上に役立つ情報を掲載しています。商品比較テスト、商品情報、暮らしの話題などの消費者向けの生活情報誌です。当たり前と思っていたことが案外違うことがわかるかもしれません。２階の雑誌コーナーにあります。

←世界週報

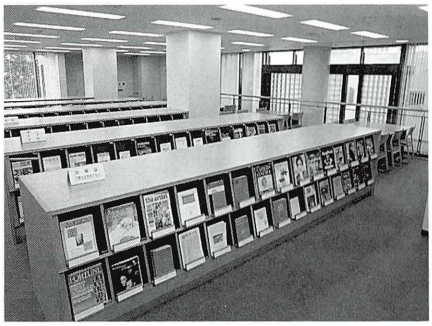
日本の二大通信社の一つ時事通信社の取材ネットが収集した世界ニュースの中から問題を取り上げたものです。解説もわかりやすく内容も多岐にわたっているので世界情勢について調べるときは有効なものとなります。１階雑誌コーナーにあります。

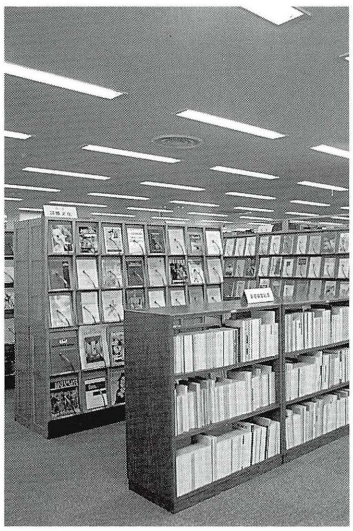
Economist→



世界情勢・経済動向を中心に科学・スポーツ・アートなどを総合的にカバーしている世界的に著明なビジネス誌です。TIME や Newsweek とは違ったタイプのものですから読み比べてみてはどうでしょうか。閉架にありますのでカウンターに請求して下さい。

ここで紹介したものは、本学図書館にある雑誌の **ほんの一部**です。皆さんが気軽に読める『**シティ情報ふくおか**』『**るるぶ**』『**モーターマガジン**』などの雑誌は１・２階にあり、学術雑誌、論集・紀要、雑誌のバックナンバーは閉架書庫に揃っています。そこで本学図書館にどのようなものがあるかわからないという方のための強い味方が《**雑誌目録**》です。この雑誌目録は和雑誌と洋雑誌のそれぞれに編集されていて本学にある雑誌の情報が記載されています。各階カウンターに置いてありますのでこれを利用してみてはどうでしょうか。見たい雑誌はカウンターに請求して下さい。どんな雑誌でも何号分でも図書館員が持って来ます。雑誌をはじめとして全ての疑問点は１階カウンターで受け付けています。気軽に声をかけて下さい。





論集・紀要って？

論集は先生方の論文をおさめたもので、紀要は大学や学会の研究成果をまとめたものです。日本全国の大学の論集・紀要が図書館にはあります。今勉強している科目の先生の論文を読んでみたり、先生にどの論文が参考になるかを聞いてみるのもよいかもしれません。

というわけで雑誌についてちょっとふれてみました。これからは図書館の雑誌にも目を向けてみてください。新たな発見がきっとあるはずです。

AVコーナーを拡充

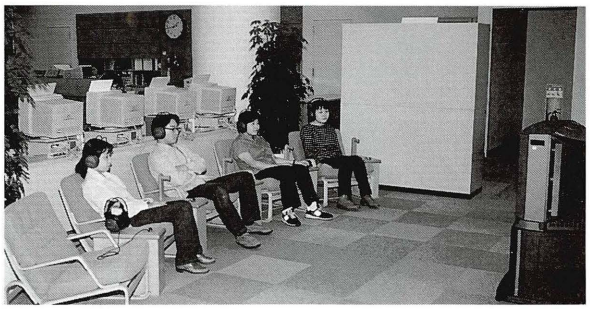
ワイドテレビの視聴セット完成

—CATV を放映、来年度には CNN 放送も—

1992（平成４）年12月に図書館の増改築工事が竣工し、利用を開始した。新図書館の利用者向け新設備としては、１階から順に軽読書コーナー（ブラウジングコーナー）、ＡＶブース（視聴覚コーナー）、ワープロタイプ室（後にパソコン学習のための図書館 SAINS ルームに転用）、グループ学習閲覧室３室、グループ視聴覚室等である。これらのなかでも、旧館時代には貧弱であった視聴覚関係設備の充実に力を入れ、その結果、平成４年度以降の視聴覚設備の利用は活発である。視聴覚設備は、映像、音楽文化が普及している現代では不可欠な設備である。なかでも本館ではビデオの利用度が高いため、本年度にＡＶコーナーのモニターテレビを４台増設した。授業や研究の面でも視聴覚教材が普及しており、図書館資料費に占める視聴覚関係費も増加傾向にある。

一方、大学の中で、一般テレビ放送を視聴できる機会とスペースがほとんどないことが指摘されてきていた。そのため、増改築にあわせて一般放送を視聴できるコーナーの設置を検討していたが、予算の関係で実現できないままであった。しかし、昨年度、図書館家具、備品を専門とする大手メーカー、日本ファイリング株式会社の関連財団法人である田嶋記念大学図書館振興財団から、図書館設備購入のための助成金を受けることが決定したため、本年度において一般放送用視聴セットの設置を実現することができた。

設置の場所は、現ＡＶコーナーの北側、検索用端末の隣である。１スパンのエリア内に SONY 32 型ワイドテレビ１台と５人が同時にヘッドホンで視聴できる座席セットを扇形に配置した。ボリュームは各々の座席の横に設置しているパネルで行う。放送媒体は CATV。計画では CNN（世界142カ国を24時間のリアルタイムで結び、同時英語字幕や２カ国語放送で定評のあるニュース専門チャンネル）を放映するはずであったが、予算の関係で来年３月まではニュース、ドラマ、スポーツを主体にした一般放送で試験的に稼動することになる。CNN 放送については、本年度中に予算化し、来年度には放送を実現したいと考えている。将来的にはスポーツ、海外ドラマなど、CNN 以外のＣＳ放送も実現し、またビデオ再生装置も取り付けたい。



静謐を旨とする図書館内に、グループ視聴覚室は別として、オープンフロアに研究向けでないテレビ視聴設備が果たして必要であるかという意見もあろうが、情報媒体の多様化と、学生を中心とした高い図書館利用状況への対応、新聞の活字に対するテレビの映像というような感覚で理解してもらいたい。懸念される音声については既に述べたようにヘッドホンで聴くことになるので、大きな問題はないであろうと考えている。

以上のように、この視聴セットは段階的に内容を充実させていくことになる。単に一般放送のみならず、外国語放送や海外のニュース、スポーツ、音楽番組などが放送できることになり、ますます図書館にふさわしい視聴セットになるはずである。

（事務次長　篠崎　珣）

お　知　ら　せ

○冬季休暇の貸出は12月９日より行います。

○卒業論文作成のための貸出期間と冊数が、増えますので申し出てください。

西南学院大学図書館報　No. 141　1996（平成８）年10月10日　発行
編集　館報編集委員会
発行　西南学院大学図書館　〒814　福岡市早良区西新６丁目２番92号　ＴＥＬ（092）841-1311（代）